

## オーディオ実験室収載

### ハイドン盤を聴く(3)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(3)—

#### 1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディのアナログ盤を聴き直してきました。今回も、ハイドン盤を聴いてみることにしました。

#### 2. ハイドンのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、ハイドンのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次のハイドン盤を聴いていきます

PHILIPS 25PC-73

  フランツ・ヨーゼフ・ハイドン 交響曲第 101 番ニ長調「時計」  
    交響曲第 102 番変ロ長調

  コリン・ディヴィス指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

fontana FG-84

  フランツ・ヨーゼフ・ハイドン 交響曲第 92 番ト長調「オックスフォード」  
    交響曲第 94 番ト長調「驚愕」  
  ヴォルフガング・ザバリッシュ指揮ウィーン交響楽団

#### 3. ハイドンのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤の交響曲第 101 番と響曲第 102 番は、国内盤ということで、RIAA、N、第 4 時定数 Mid と EMI、N、第 4 時定数 Low がありますので、両者で聴いていきましたが、後者の方は騒がしくなり、前者にしました。交響曲第 101 番「時計」は、お馴染みの曲です。規則正しい旋律の刻みのくだりは時計の振り子を想像させ、全体を

通してリズミカルで勢いのある演奏です。交響曲第 102 番は、軽快で勢いのある演奏です。

fontana 盤の交響曲第 92 番と交響曲第 94 番は、ZANDEN のリストでは、EMI、R、第 4 時定数 Low ですので、この条件で聴いていましたが、違和感はありません。交響曲第 92 番「オックスフォード」と交響曲第 94 番「驚愕」は、ともにお馴染みの曲です。交響曲第 92 番「オックスフォード」は軽快な曲で、爽やかな音の演奏です。交響曲第 94 番「驚愕」は、静かに眠りを誘うような気持ちにさせるところから突如大音響で驚かすくだりで知られています。

#### 4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティ static やスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上